

**The association between non-infectious uveitis and COVID-19 outcomes: an analysis of United States claims-based data.**

Miller DC, Sun Y, Chen EM, Arnold BF, Acharya NR.

Ophthalmology. 2021 Oct 11:S0161-6420(21)00751-X.

PMID: 34648828 Free PMC article.

doi: 10.1016/j.ophtha.2021.10.007. Online ahead of print.

COVID-19 ウィルス感染は、コルチコステロイドや免疫抑制薬、生物学的製剤を使用するぶどう膜炎専門医において、大変重要な出来事である。なぜなら、これらの薬剤を使用することにより、COVID-19 ウィルスの感染を助長し、悪化させ、死に至らしめる可能性がある。しかし、治療に必要な薬剤を中止することは、ぶどう膜炎を悪化させ、視機能に影響を及ぼすことも危惧される。アメリカでは COVID-19 ウィルス感染が悪化した 2020 年 1 月から 12 月までの期間で、それ以前の 3 年間、非感染性ぶどう膜炎 (NIU) としてコルチコステロイドで治療された症例の追跡調査をした。その結果、コルチコステロイド治療を受けた NIU の人は、COVID-19 ウィルスに感染しやすいことや、入院や死亡の頻度も通常の人と差異が無いとの報告をされている。また、若年性関節リウマチ関連のぶどう膜炎に使用される DMARD 治療やぶどう膜炎に治療にしようされる生物学的製剤を使用した症例でも COVID-19 ウィルス感染における死亡頻度に影響が無かったようである。現在、生物学的製剤の抗 TNF-alpha 製剤や抗 IL-6 製剤は重症化する症例への予防効果もあると報告されており、今後更に精密にデータを解析する必要があると考えられており、我々ぶどう膜炎を治療する医師に有用な情報が得られることを期待している。

(担当者: 大阪大学 丸山 和一)